卒業研究 2（薬学教育学分野）

責 任 者・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	臨床薬学講座薬学教育学分野　白石　博久 特任教授

・教育成果（アウトカム）

6 年制薬学教育がスタートして既に 19 年が経過し、薬学出身者、とりわけ薬剤師に期待される職能、職域は益々多様化している。そうした社会の要請に応えるべく、令和 4 年度には、医・歯・薬学の全ての領域において、医療人としての共通の価値観を共有すべく薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂が進められ、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」というキャッチフレーズが掲げられた。この目標に向かってこれまでの薬学教育を省察し、将来の薬学教育をより実りあるものとしてくためには、薬学教育カリキュラムと日々向き合ってきた学生たちの視点が欠かせない。卒業研究 2 では、卒業研究 1 において抽出した薬学教育の問題点や改善策等について、アンケート調査やさらに踏み込んだ調査研究を通して、学生目線からの薬学教育の在り方を提案する。更に、研究の方向性に関する議論やその成果のプレゼンテーションを通して、情報発信能力やコミュニケーション能力を培う。（ディプロマ・ポリシー：7,8,9,10）

・到達目標（SBO）

1. 国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(58)
2. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(59)
3. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(60)
4. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(61)
5. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(65)
6. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(66)
7. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。（1062）
8. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（1063）
9. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（1064）
10. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。（1066）
11. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（1067）
12. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（1068）
13. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案し、説明できる。（1069）
14. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（1070）
15. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（1071）
16. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（1072）
17. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（1073）
18. 薬学教育の現状と未来について調査・考察し、まとめることができる。（☆）
19. 薬学教育の改善に向けて、カリキュラムの見直し、問題点の抽出、改善策の検討に必要な方略を考案することができる。（☆）
20. アンケート調査や調査研究を通して、学生目線からの薬学教育の在り方を提案できる。（☆）

・実習日程

コマ数	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
60	薬学教育学分野	白石　博久 特任教授	薬学教育学の向上に資する教育プログラムやカリキュラム構築に向けた調査研究 1. 医療教育の中における薬学教育の現状と未来について調査・考察し、まとめることができる。 2. 薬学教育の改善に向けて、本学のカリキュラムの見直し、問題点の抽出、改善策の検討に必要な方略を考案することができる。 3. アンケート調査やさらに踏み込んだ調査研究を通して、学生目線からの薬学教育の在り方を提案できる。 その他の到達目標：SBO1-20 に同じ 【調査学習】【調査研究】【グループワーク】【対話・議論型】 事前学修：該当日の実施内容の把握と準備 事後学修：成果のまとめと次回の課題設定

・教科書・参考書等（教：教科書　　参：参考書　　推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬学史入門	日本薬史学会　編	薬事日報社	2022
参	新スタンダード薬学シリーズ 第１巻　モデル・コア・カリキュラムで学ぶ薬学	新スタ薬シリーズ編集委員会編	東京化学同人	2024
参	新スタンダード薬学シリーズ 第２巻　社会と薬学	新スタ薬シリーズ編集委員会編	東京化学同人	2024

・特記事項・その他

・実験系の卒業研究を希望する場合は、生体防御学分野と協力し、白石が行っている基礎研究に関連したテーマを設定することも可能である。その場合、環境ストレスや加齢に応じて変動するモデル生物の細胞内オルガネラに着目し、その形成／消失に関わる遺伝子群の役割について、遺伝学的・生化学的・分子生物学的・細胞生物学的手法とバイオインフォーマティクスを組み合わせた解析法を学ぶ。更に、生体の恒常性維持における環境要因と遺伝的要因の関係について学ぶ。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	MacBook Pro	1	情報検索、発表資料の作成、プレゼンテーション

実習	iPad Air と Apple Pencil	1	作成した資料の映写や、発表会のメモなど